



期末考査、お疲れ様でした。とは言え3年生は、いよいよ追い込みの時期になりました。さらにこれからの1ヶ月で出願(多くがWeb出願)と、それに必要な様々な手続きを踏まなければなりません。体調管理に十分留意しつつ、欠席・遅刻などで大切な情報を聞き逃すことのないようにしてください。

● 3年生：今後の日程(詳細は配布済みのプリントで確認してください)

12月18日(金)：「調査書」交付の説明会

21日(月)：「調査書」記載内容の確認。「調査書交付願」・「調査書用封筒」の提出締め切り。

22日(火)：共通テスト説明会・「受験票」の配付

25日(金)：早期に必要な「調査書」のみ交付

1月7日(木)：「調査書」の交付

①【共通テスト情報(12/8 大学入試センター発表) & 志願動向】

大学入試センターから、令和3年度「大学入学共通テスト」の志願者数(確定)が発表されました。

志願者数	53万5,245人	前年比	22,454人(4.0%)減少
現役生	44万9,795人	〃	2,440人(0.5%)減少
浪人生	8万1,007人	〃	19,369人(19.3%)減少

現役志願率	44.3%	前年比	1.0%増加
-------	-------	-----	--------

共通テスト利用 大学・専門職大学・短大数	866大学 (過去最多)	国立大	: 82	公立大	: 91
		私立大	: 533	公立短大	: 13
		私立短大	: 142(3増)		
		専門職大学	: 5(新規)	公立1, 私立4)	

※ 来春は高校卒業見込み者が約27,000人も減少しますが、現高校3年生(約101万6,500人)の44.3%【千葉西高校では327名(92.1%)】が共通テストを受験します。

※ 新型コロナウイルス流行による長期休校に配慮して設けられた「第2日程(令和3年1月30日(土), 31日(日))」を選択したのはわずか0.1%に当たる718人にとどまりました。

※ 志願者数に関して

【1】浪人生が大きく減少している

… 翌年に大学入試改革を控えた令和2年度入試が「超安全志向」であったため、浪人生自体が減少している。(本校でも浪人は62名から39名に激減しました)

⇒ 浪人生が少ないということは

… 現役生には、終盤の追い込みが効く ⇒ 第1志望への想いを貫く強い気持ちを再確認する

【2】高3生の数は27,000人も減るのに、現役出願者は2,440人しか減っていない。

… 共通テスト利用の併願校を増やせば、個別入試での感染リスクを避けられるから。

※ 全体的な志願動向

・安全に、背伸びせずに指定校推薦で早期に進路を決めようとする傾向が全国的に強かった。

⇒ より安全圏を狙って志願者は全体的に下方へシフトしています。

さらに、大学志願者数、浪人とも大幅に減少し、定員厳格化の調整もほぼ終了しました。

- ・新方式の入試を導入する難関大学・学部は敬遠される傾向にあるようで、狙い目です。
- ・一方、押さえの大学や、東京を避けた千葉・埼玉の大学では志願者が増え、特に共通テスト利用入試が激戦となる可能性があります。

⇒ 最後まで粘って、難関大・準難関大への強気な志望を維持している人にとってはチャンス。

②【赤本は21日(月)までに返却を!・・・共通テスト対策も怠らずに】

申し訳ありませんが、冬休み中の赤本の貸し出しは行いません。

18日まで貸し出しは行いますが、21日(月)までにすべて返却してください。

- ・共通テストまで1か月となったこれからは、「共通テストに向けての、基礎・基本の再確認」、「過去の模試などで間違えた問題の見直し」、「苦手分野の補強」などに取り組むと良いと思います。基礎が不足していると感じるなら、焦って赤本をやるよりも、思い切って教科書に立ち返り、基礎的な部分をもう一度やり直すことが大事です。今が苦手分野を克服するラストチャンスです。

- **共通テストに向けて・・・** 共通テストでは、①『複数テキストからの出題（1題の中に2つ以上の文章が組み合わせて出題される）』、②『不要な情報も含まれる長い問題文から必要な部分を抽出する』、③『複数の資料・図・グラフ・表などから情報を読み取る』、④『実用文や日常の事象などを題材とした出題』など、慣れとスピードが求められる問題が予想されています。

共通テスト対策の問題集などで、解答時間を意識した演習に取り組んでみましょう。マークを見直す時間を考慮に入れ、実際の試験時間より1割程度短い時間設定で取り組んでみましょう。

③【1・2年生・・・『共通テスト』のこと、どれくらい知っていますか?】

千葉西高校の現3年生は327名(92.1%)が共通テストを受験します。つまり4年制大学へ進学する人のほぼ全員が共通テストを受験します。それに対して10月14日に実施した進路希望調査の結果は・・・1・2年生がまだ共通テストのことをよく理解していない、ということを示しています(下表)。



	4年制大学へ進学を希望する割合	共通テストを受験する予定の1・2年生
2年生	306名/319名中(全体の96%)	248名(全体の77.7%)
1年生	306名/316名中(全体の97%)	167名(全体の52.8%)

● 私立大学の『共通テスト利用入試』とは

受験生は『大学入学共通テスト(1月中旬)』を受験し、各大学の『共通テスト利用入試』に受験します。それぞれの大学は出願者の試験結果を大学入試センターに問い合わせ、合格が決まる入試方式です。試験問題はマークシート式で(記述問題の導入は見送られました)、高校で学ぶ内容の中でも教科書レベルの比較的基礎的な範囲から出題されます。共通テストの成績のみで合格が決まる「単独型」の他に、「共通テスト」と「個別試験」の両方が課される「併用型」があります

● 私立大学の『一般選抜』とは

『共通テスト利用入試』に対して、各大学が個別に実施する試験で、多くの大学は同じ学部・学科でも複数の入試方式(全学部統一選抜、前期・後期日程など)を設け、受験機会を増やしています。

● 『共通テスト利用入試』のメリットは・・・

- ・共通テストを受けるだけで、複数の大学・学部学科を受験できる。
- ・『一般選抜』と比べて受験料が安く、地元で受験できるため、お金と時間の負担が小さい。

● 『共通テスト利用入試』のデメリットは・・・

- ・募集人員が少ないため高倍率になり、同じ学部・学科でも『一般選抜』より難易度が高くなる。
- ・ほとんどが共通テスト前の出願締切りであるため、早めに志望校を決める必要がある。